

四国の森を知る

No.36 Feb 2021

令和2年度九州・四国地域公開講演会を開催しました ～はじめての動画配信～

支所長 小林 功



例年、四国支所では地域のみなさまに支所の研究成果を提供するため公開講演会を開催しています。今年度は当支所と九州支所が合同で「植えた樹を鹿から守る」と題して実施しました。

主伐期を迎えている我が国の人工林では皆伐と再造林が進められていますが、新しく植えた苗木がシカに食べられてしまう被害が大きな問題となっており、効果的なシカ被害対策が求められています。せっかく植えた苗木をシカから守るため、九州支所と四国支所は合同でプロジェクト研究「九州・四国地域の若齢造林地におけるシカ被害対策の高度化（H29～R2）」を実施してきました。その中で得られた成果の一部ですが、以下のような講演を行いました。

1. 植えた樹をシカから守るために
九州支所長 陣川雅樹
2. 単木保護資材を利用したスギ苗の保護
九州支所 野宮治人
3. 皆伐地の食痕でシカの多少を推定する
四国支所 大谷達也
4. 多点調査でみる防鹿柵の破損とシカ被害
九州支所 山川博美
5. シカ被害対策グレードアップ術
野生動物研究領域長（つくば）岡 輝樹

講演1は九州・四国地域の森林・林業の現状、林業におけるシカ被害対策、プロジェクト概要の説明です。講演2は九州・四国地域の単木保護資材の施工地47箇所を調査した結果の報告です。講演3はプロジェクトの中で開発した、皆伐地にシカがどの程度いるのかを簡単に推定する方法の解説、講演4は320箇所のアンケートによって調査した防鹿柵の破損、苗木の被害、シカの痕跡に関する報告です。講演5では、林業にお

ける獣害の概要とシカ被害対策の現状と課題、より効果的なシカ被害対策についての解説と森林総合研究所におけるシカ研究について取りまとめた内容です。

森林総合研究所は令和2年9月、YouTubeに森林総研チャンネルを開設し、研究内容・成果などの動画による配信を始めました。

<https://www.youtube.com/c/FFPRIchannel>

昨年度までは九州、四国支所ともに参集形式による講演会を開催してきましたが、新型コロナウイルスの感染・拡大予防のため、今年度は参集形式ではなく、森林総研チャンネルによる講演会としました。動画は令和2年12月1日から配信しています。動画の撮影、編集など初めての経験で苦労も多かったのですが、大変見やすい動画ができたかと自負しております。まだご覧になっておられない方にはぜひご視聴いただきたく、ご案内申し上げます。

新型コロナウイルスの勢いはいまだ衰えませんが、いずれ時代はポストコロナへと移っていきます。今回初めて行った動画配信も、新しい講演会の形として社会に根付いていくものと考えます。当支所の研究成果をみなさまのお手元に分かりやすく届けるため、時代の変化にあわせて工夫しながら続けていきたいと思っております。今後とも、どうかよろしく願いいたします。

目次

| | |
|---|---|
| 令和2年度九州・四国地域公開講演会を開催しました ～はじめての動画配信～ | 1 |
| 皆伐地に残るシカの食べ跡から苗木被害のリスクを 推定できるか | 2 |
| スギ・ヒノキ人工林で生物多様性を保全するために | 4 |
| 森の豆知識シリーズ（6） スズメバチに注意 | 6 |
| お知らせ | |



判断するだけなので、植物種名の知識は必要なく誰でもできる方法だと考えています。

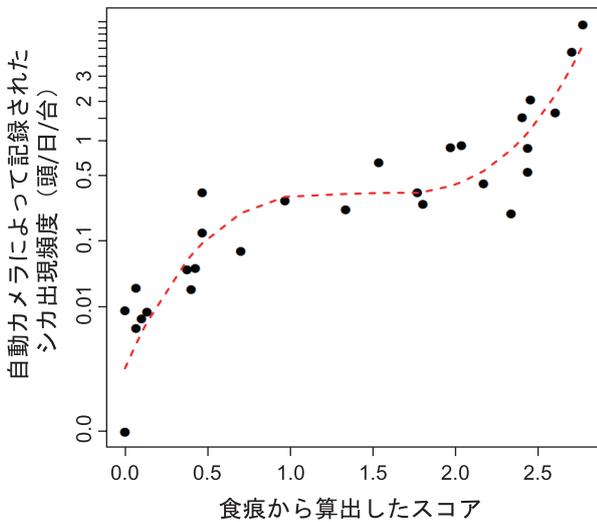


図1. 皆伐地ごとの食痕スコアとシカ出現頻度の関係
赤点線は三次の回帰式を表す。
縦軸は等間隔でないことに注意。

食痕スコアで苗木被害リスクを知る

つぎに、簡単に算出できる食痕スコアによって単木保護資材をつけたときの苗木の被害度を予測できるか検討しました。四国と九州にある単木保護資材の施工地で、食痕スコアを算出するとともにスギ苗木の被害状況を記録しました。将来に正

常な成長を見込めないほどの激害となっている苗木の割合をその場所の被害度として(写真3)、簡易版の食痕スコアとの関係を見ると、図2のようになりました。ここで激害苗木の割合が1に近いと、その植栽地はほぼ全滅ということになります。苗木の被害度にはシカの出現頻度以外にも、周辺植生の状況や皆伐地内の下草の量・種構成といった多くの要因が影響するため、苗木の被害度を食痕スコアだけで説明できるわけではありません。しかし、食痕スコアが大きくなると激害苗木の割合が高い場所が増えることがみてとれます。単木保護資材をつける場合には通常よりも植栽密度を少なくして1500本/ha程度にすることもよくありますので、植えた苗木の2割以上が激害を受けるという状況はとて許容できません。食痕スコアが1を超えるような場所では、単木保護資材をつけても許容できないような被害を受ける可能性があるといえそうです。シカの生息がわかっている地域での再造林でスギ苗木と単木保護資材を利用する場合には、ここでご紹介した方法でシカの出現状況を予測した上で、その後の苗木管理を十分にご検討いただきたいと思います。



写真3. 単木保護資材から引き出されて激しく食害されたスギ苗木

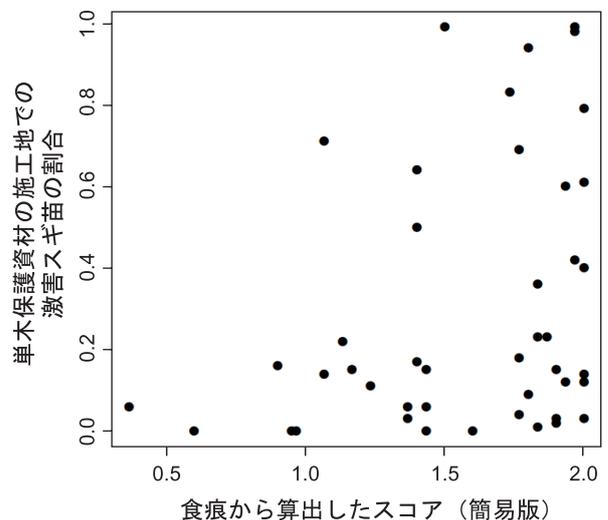


図2. 食痕スコア(簡易版)と単木保護資材をつけたスギ苗木被害との関係

今回ご紹介した調査方法は皆伐地ができたあとに適用するものですので、将来的には皆伐の前にシカ被害のリスクを予測する方法を開発したいと考えています。

